

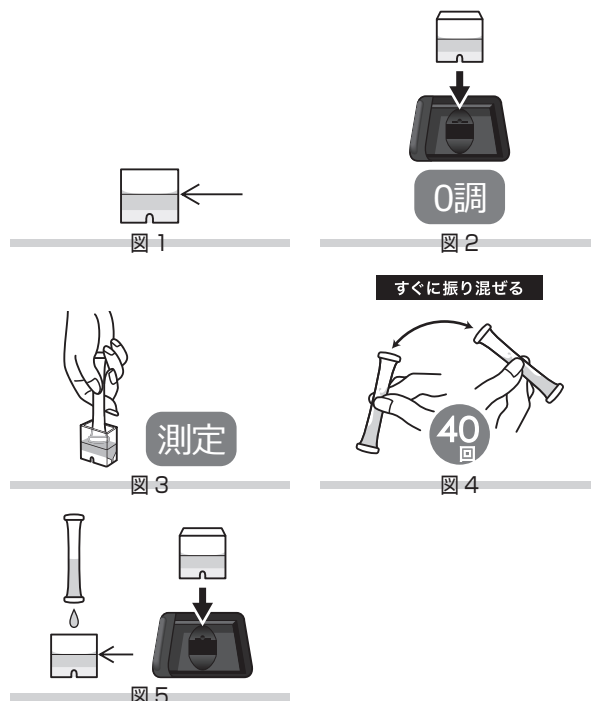
CN-3 遊離シアン（試薬型式が WAK-CN-3 の場合）

発色：無色→（赤）→青
測定原理：4-ピリジジカルボン酸法
測定範囲：0.01 ~ 1.00 mg/L (ppm)
試薬：WAK-CN-3 チューブ
測定時間：チューブに吸い込み後 10 分

セル：専用カップ
使用波長：607 nm, 535 nm, 680 nm

測定方法

1. 【CN-3】を押します。
2. 【決定】を押し、測定画面に切替えます。
3. 検水を、専用カップに1.5mL（線まで）採ります。（図1）
4. 専用カップをセルボックスに入れ、【0調】を押します。（図2）
5. バックテストのチューブに、専用カップの検水を全量吸い込み、同時に【測定】を押します。（図3）
6. すぐに5. のチューブを軽く40回程度振り混ぜ、試薬をよく溶かし、チューブのまま静置します。（図4）
7. カウントダウンが2分を切ったら、専用カップにチューブ内の測定液を静かに戻し、セルボックスに再びセットし静置します。（図5）
8. 10分後に濃度が自動表示されます。



注意

1. この方法は、試薬型式 WAK-CN-3 専用です。試薬型式 WAK-CN-2 を使用する場合は、測定項目 CN-2 を選択してください。
2. この方法では検水中の遊離シアン（主として、シアン化物イオン（ CN^- ）と塩化シアン（ CNCl ））が測定されます。
鉄シアン錯塩等を含んだ全シアンを測定する場合は、「 CN^- 全シアン」の項目をご参照ください。
3. 発色時の最適 pH は 7 です。水酸化ナトリウムで pH 12 に調整した検水はそのまま測定できます。pH が 6 ~ 12 の範囲をこえる検水は希硫酸化ナトリウム溶液または希硫酸等で中和してから測定してください。
4. 「測定方法」6. で振り混ぜた後は、測定液をチューブに入れたまま静置します。専用カップに早く移すと測定値が低めになります。
5. 検水の温度は 15 ~ 30℃ で測定してください。

共存物質の影響

内蔵の検量線は、標準液を用いて作成しています。他の物質の影響が考えられる場合は、公定法と比較するか、標準添加法により測定値を確認してください。
右表は、標準液に単一の物質を添加した場合の測定値への影響データです。

残留塩素等の強酸化性物質や、亜硫酸塩等の還元性物質が存在すると、負の誤差を生じます。
海水は測定できません。
10% (w/w) 以下のエタノールは影響しません。
妨害物質が含まれている場合には、蒸留・通気法等によって前処理をしてください。

1000mg/L以下は影響しない		…B ³⁺ （ほう酸）、Cl ⁻ 、F ⁻ 、K ⁺ 、Mg ²⁺ 、Mo ⁶⁺ （モリブデン酸）、 Na ⁺ 、NH ₄ ⁺ 、NO ₂ ⁻ 、NO ₃ ⁻ 、PO ₄ ³⁻ 、SO ₄ ²⁻ 、 陰イオン界面活性剤、非イオン界面活性剤、 エチレンジアミン四酢酸（EDTA）、グルコース、 シリカ、フェノール
500mg/L	//	…SO ₃ ²⁻ 、アスコルビン酸、陽イオン界面活性剤
100mg/L	//	…Br ⁻
50mg/L	//	…Mn ²⁺ 、Zn ²⁺
20mg/L	//	…Al ³⁺ 、Ca ²⁺ 、Cr ³⁺ 、Fe ²⁺ 、Fe ³⁺ 、I ⁻
10mg/L	//	…Ba ²⁺
5mg/L	//	…残留塩素
2mg/L	//	…ホルムアルデヒド
1mg/L	//	…Co ²⁺
少しでも影響する		…Cu ²⁺ 、Ni ²⁺ 、SCN ⁻